ENGLISH 英語 浜松開誠館中学校・高等学校

Qureous で基礎力の定着を行うとともに生徒自らが「学びたい」と思う学習環境づくりを

創立 90 周年を機に徳育に加えて、始動させた「未来戦略プロジェクト」浜松開誠館中学校・高等学校ではグローバル教育や ICT 教育、探究学習（SDGs）に力を入れており、その先駆け的な存在として注目を集めている。昨年からは Qureous を用いた学習を積極的に授業に組み込むことを決めた。それにより、教育の場はどのように変わっていったのか。「未来を育む教育」を大切にする、髙橋千広校長に話をうかがった。

浜松開誠館中学校・高等学校では、生徒たちが主体的な学習者になっていくよう、生徒たち自らが課題をみつけ、それを解決していけるように、教員がサポートする体制を取っている。一方でグローバル教育を進め、探究学習として SDGs（持続可能な開発目標）を学び実践することで、より高度な主体性を育むことに繋がっている。

生徒も、教員もどう変わって何を学んでいくべきか？

生徒たちが自ら主体的に学んでいくことができ、学び合える教材をと考えた時、AI（人工知能）を搭載したアダプティブ・ラーニングができる Qureous の存在は早くから知られていた。そのため、導入すること自体に抵抗はなかった。

Qureous は機能自体もシンプルで、何より今の時代にあった「ゲーム感覚」で学べるというのは大きな特徴だ。「部活の合間に時間を見つけて Qureous で学習する生徒もいるんですよ」と髙橋校長は笑顔を見せる。それまでは、生徒たちも毎日の授業についていくことに必死で、たとえわからない部分があっても、それを振り返って学習することができずにいる生徒も多かった。

だが、Qureous の導入により、それぞれが忙しいなりに時間を見つけて、楽しみながら主体的な学習に取り組むことができるようになった。この変化は画期的で、生徒が「学びたい」と思う心を育むのにとても大切なのだという。

「これまでの学習方法では、例えばテストで点数が取れなかった子に対してのフォローが不十分だと思っています」と、髙橋校長。実際、中間テストや期末テストの直前は必死に勉強するものの、その後はしない、という生徒も多い。テストや受験のためだけに膨大な量を暗記することに一体何の意味があるのか――以前、そんな質問をしてきた生徒がいた。その意見には、髙橋校長も賛成だという。

そのため、浜松開誠館中学校・高等学校では本年度は中間テストを廃止し、来年度は期末テストも廃止すると決めている。「実際、受験が絡んでくると内申点に縛られてしまい、そのためだけの勉強をしている生徒が多いです。でもそれは本来の学びの姿勢と言えるのでしょうか？」髙橋校長はこう問いかける。

以前、中学 3 年生を対象にしたオープンキャンパスを実施した際、見学に訪れた生徒に「毎日の授業は興味が湧く、充実したものになっていますか」と尋ねたところ、「講義型」の授業に不満を感じている生徒が多かったそうだ。

浜松開誠館中学校・高等学校では、Qureous を導入することでこれまでの「講義型」の授業だけではなく、もっと自由に学び合い、生徒たちが自ら考え解決していけるようなスタイルを取っている。当初は教員側にもそれに対して戸惑いは見られたものの、始めてみればこれまで見えなかった生徒たちの別の顔や別の部分が見えるようになったと言っている。教員もこれまで以上に生徒に声をかけるようになった。以前までとは異なるアプローチ方法で生徒たちをサポートしていくので、「生徒たちが主体的な学習者として成長していくのと同時に、教員自身も成長していかなければ未来を育む教育は出来ない」と、髙橋校長は説明する。

【徳育】×【探究】をコンセプトに、グローバル社会でも活躍できる生徒を

浜松開誠館中学校・高等学校では、高度な主体性を育む一環として、Qureous の導入などの ICT 教育の他に、グローバル教育、探究学習にも力を入れている。中学・高校でそれぞれ独自の教育プログラムを持ち生徒の育成体制をサポートしているが、特に SDGs、その中でも【気候変動に具体的な対策を】に関する活動は高く評価されており、令和 2・3 年に環境大臣賞を連続受賞し、令和 2 年度は静岡県知事褒章受賞の栄誉に輝いた。また、令和 2 年の環境白書にも掲載されている。そして、生徒たちの主体的な活動が認められ、第 14 回キャリア教育優良教育委員会、学校及び PTA 団体等文部科学大臣表彰にも輝いた。それらの活動について、髙橋校長は「全て、生徒たちが主導で行っています」と説明する。始まりは少数の生徒が声を上げたことからであったが、やがてそれが部活や生徒会も巻き込み、今では学校全体で様々な活動を行っている。また学校のイベントも生徒会が主体で行うようになり、教員主導で行われていた時よりも、自由度が大幅に増したうえに皆の笑顔がはじけ評判も上々だ。

「基本的に、子供は嫌なことはやりませんよね。でも生徒自らが考え行動し、それらが評価されることで自信がつきます。そうすると、またやってみよう、今度は何をやろう、と生徒たち自らが考えるようになり、様々な提案をするようになります」と、髙橋校長。

「一人ひとりの自己肯定感が高まることで、それが自信に繋がる。「生徒自身が自分の良さを発見し、それぞれの得意とすることを発揮して社会貢献していけるようになるための知識基盤を作るためには、様々なことを「知る」「学ぶ」ことの楽しさを体験することが重要であり、そういった生徒たちの心の成長を大切にしたいと思っています。Qureous を用いることにより得た主体的学習の効果は、学習だけでなくこういう部分にも出るんです」と髙橋校長は笑顔を見せた。Qureous を導入してまだ 1 年。効率や活用方法などまだまだ検討が必要な部分は多いが、生徒にとって最適な学習を提案できるよう、「生徒とともに授業を作っていく」ことを目指している。

Teacher Profile

校長
髙橋 千広先生

授業での導入例

学年：**高校 1 年生**／科目：**英語表現 I** ／単元：**助動詞 +have+ 過去分詞**

グループワーク　15 分
4 人 1 組のグループに分かれ、Qureous の単元にある問題を相談しながら解いていく。また、同時にヘッドセットなどを用いてスピーキングも練習する。発音が良いと Qureous が「Excellent」と評価するので、励みになる。教員は生徒の進捗状況を Qureous マネージャーで把握し、必要に応じて声をかけていく。

グループごとに分かれて問題に取り組む。すぐに答えがわからなくても Qureous を活用しながら解き方を考え、メンバーと相談しながら正答にたどりつく努力をする

グループワークで出した答えの発表　15 分
生徒はグループワークで出した答えの発表を行い、教員はその答え合わせをする。問題には構文の基礎から和文英訳などの応用までバリエーションがあり、教員は適宜 Qureous を利用しながらその問題の説明を行う。

わかりにくかった箇所は Qureous の類題を解くことで、授業内で克服する

授業内容の振り返り　20 分
教員がその日の学習内容の解説を行った後、生徒は各自、授業の振り返りを行う。生徒たちが Qureous で問題を解いている間、教員は教室内を巡回し、生徒からの質問に応じる。この科目では授業で学習した文法の振り返りを生徒が自宅でも行えるように、教員が Qureous の該当範囲を指定し、確認テストも実施している。

授業の締めくくりに各自がその日の授業を振り返り、学習内容の習得の度合いを確認する。生徒たちは楽しみながら問題を解いていく

生徒の声

1. ヒントと解説があってわからない時に解きやすくてよい。
2. 英語に対する学習意欲が上がりました。また、表現方法が分からないときに Qureous を使って理解するということがありました。
3. 以前は分からない問題があってもそのままにしていたが、Qureous を使いはじめてから、しっかり調べて理解しようと思えるようになった。
4. 問題の形式が多くあり、身につきやすいこと。
5. 文法、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの中で苦手なところを集中的に学習できる。
6. 1 つの例文に対してたくさんの問題を解き、覚えることができるので、その例文をうまく利用し他の文で使うことができる点。

数学 浜松開誠館中学校・高等学校

2024 年に創立 100 年を迎える浜松開誠館中学校・高等学校は、7 年前より「未来戦略プロジェクト」の一環として iPad（タブレット PC）を全員導入するなど ICT 教育に力を入れている。昨年からは Qureous を用いた学習を積極的に授業に取り入れ、指導を行っている。その状況について、数学担当の伊藤陽介先生と英語担当の白石真悟先生に話をうかがった。

「未来を育む教育」を教育方針としている、浜松開誠館中学校・高等学校。「学校は楽しく学ぶ場」であることを教育理念として掲げ、生徒たち自らが考えて行動する主体的な学習活動を推進している。昨年より導入した Qureous は、生徒たちにも大きな影響を与えているようだ。

「学ぶ楽しさ」を知ってもらうため Qureous で楽しさの「種まき」を

2014 年に発足した「未来戦略プロジェクト」の一環で ICT 教育の先駆け的な存在となった浜松開誠館中学校・高等学校は、いち早く生徒一人ひとりにタブレットの導入なども行っていた。そして、「未来を育む教育」「学校は楽しく学ぶ場である」ことを実践するべく、昨年より Qureous を導入した。

「生徒たちも、最初は戸惑ったこともあったのでしょうね。でも実際に使ってみると、ゲーム感覚で問題を解くことが出来るので、すぐに馴染んだようでした。実際、授業中も楽しそうに問題に取り組んでいる姿が見られます」と、伊藤先生。Qureous を導入してからは、放課後の補習授業（高校 1 年のみ）でも利用するようにし、「基礎学力の定着の向上にも役立てています」と伊藤先生は笑顔を見せる。

Qureous を導入してまだ 1 年なので、どうすれば効率的に生徒が学習していけるのか、教員としてどのようにそれをサポートしていけるのか、まだまだ手探りの部分はあるが、従来の「講義型」授業の時と変わったことがある。それは「生徒との対話」、「生徒同士の学び合いの時間」が増えたことだ。

「Qureous は演習問題を解いていく際に積極的に利用するようにしていますが、生徒たちが質問をしてくる頻度や、授業内容について意見を交わすことが明らかに以前より増えましたね」と伊藤先生。

浜松開誠館中学校では、週 1 日は色々なコースの生徒をミックスして数学の授業を行っている。その中で、生徒たちは自由に席を移動し、お互い助け合いながら学び合う。従来の「講義型」の授業では、授業のペースは教員が握っていたが、Qureous を利用した授業では、生徒たちが自分のペースで学ぶことが出来るのも特徴だ。また、教員側にもメリットがある。Qureous マネージャーで生徒たちの進捗状況を一覧できるので、解答状況がどうなっているか、どこでつまずいているかをリアルタイムで把握し、授業に反映していくことができるのだ。「数学が楽しい、問題が解けてうれしいという声を、生徒たちから聞けるようにしたいです」と、伊藤先生は言う。楽しく学ぶことが出来なければ、生徒たち自ら学習を続けていくことも難しい。Qureous は、そういう課題を解決するためにとても重要な役目を持っているように感じている。

+ αの知識を身につけることができることが魅力的

Qureous はそれぞれのペースで問題を進められることが大きな特徴の 1 つだが、実際の授業で、一方の生徒からは質問を受け、一方の生徒は既に問題を全て解き終わってしまっている、ということもある。時間に余裕のある生徒や、もっと学びたいと意欲を持つ生徒には、別の単元――学年を越えた応用的な問題――を解いてもらうことも可能だ。「中学生でも、意欲的な生徒には高校で習う単元の問題を解くように案内することも実際にありますね」と、白石先生。テンポよく、ゲーム感覚で学習を進めることが出来る Qureous では、知らない内に + αの知識を生徒自らが求めて身につけていくことが出来るという点が、非常に魅力的な特徴であり従来の「講義型」の授業では無かった部分だ。

また、Qureous はリスニングやスピーキングの教材もバリエーション豊富であり、大きな魅力でもある。

「導入した当初は、恥ずかしそうに周りを気にしながら発音練習をしていた生徒も、今では堂々と取り組んでいます」と白石先生は言う。文部科学省も提言しているが、これからの英語教育は「聞く」「話す」「読む」「書く」の 4 技能を活用し、授業でも発音などの間違いを恐れず、積極的に英語を使っていくことが重要とされている。浜松開誠館中学校・高等学校でも、「たくましく・心豊かなグローバルリーダーを育てる」ことを目標としていることもあり、リスニングやスピーキングは生徒たちの「将来性」「未来」を考えた上でも非常に重要な項目である。Qureous では、上手にスピーキングが出来た場合は「Excellent」の評価を受けることが出来る。生徒たちはその評価を受けることがとても楽しいようで、「Excellent が出るまで、何度も何度も練習するんですよ。評価が出たら、嬉しそうに報告してくれます。発音が上達する上に生徒達も楽しそうで、教員としても安心します」と白石先生。Qureous を使うことで、従来の「教える」教育から、「自ら学んでいく」教育に変わってきたことを感じるという。家庭で生徒が主体的に学習をするようになったと、Qureous 導入は保護者の評価も上々だ。

「知りたい」「学びたい」と思うことに制限はない。生徒たちが主体的に取り組むことができる学習環境を作っていくうえで、Qureous は今、欠かせない存在となりつつある。

Teacher Profile

数学担当
伊藤 陽介先生

授業での導入例

学年：**中学 3 年生**／科目：**数学**／単元：**中点連結定理**

小テストの振り返り　20 分

授業の前半は、前回の小テストの振り返りや、教員による単元の導入を充てる。特に正答率の低かった設問については、黒板を用いて教員が教科書と照合しながら一問ずつ説明する。新しい単元に入るときは、最初に教員がその単元の内容を丁寧に説明することから始める。生徒たちはノートとタブレットを併用し、説明を記録していく。

テストを各自に返却後、教科書と照らし合わせながら一問ずつ振り返っていく

Qureous による演習　20 分

授業の後半は、Qureous の「ワークブック」機能を使って演習問題に取り組む。一人でひたすら問題を解く生徒、他の生徒と助け合いながら問題を解いていく生徒と、学習スタイルはさまざま。その間、教員は教室を巡回し、生徒から質問があればそのつど説明する。また、手が止まっている生徒がいれば、積極的に声をかけていく。

積極的に Qureous の演習問題に取り組む。クイズ感覚で問題を解いていくことができるので、生徒たちも楽しそうだ

授業での導入例

学年：**高校 1 年生**／
科目：**数学**／
単元：**確率**

解説およびその日の授業内容の振り返り　10 分

生徒の解答の速さはそれぞれ違うため、早く解答を終えた生徒には次の単元に進むように促し、進捗の遅い生徒には黒板や教科書を併用して説明を行う。その後、生徒はタブレットを片付けて、紙の小テストに取り組む。小テストはその日の学習内容の習熟度を確認するために行われている。その間に教員は、問題を Qureous の「ワークブックモード」を利用してタブレットに配信し、生徒が家庭で学習内容を振り返ることができるようにする。

その日解いた問題を家庭でも学習できるよう、Qureous の「ワークブックモード」を利用してタブレットに学習用問題を配信。また、次の単元の予習もするように促す

生徒の声

1. 周りに合わせなくていいから、自分のスピードで集中して学習に取り組める。
2. 先生だけでなく、友達と教え合うことで理解が深まった。Qureous を始めて少し数学が楽しくなった。
3. Qureous で先取りしているので、授業でより理解が早くなった。
4. 数学の点数が Qureous を利用してから大幅に上がった。
5. 分からない問題などでヒントや解説を見て解けるようになったりするので、あきらめずに一人で頑張ろうと思えるようになった。
6. 英文が読めるようなった。話すときの発音も少し良くなった。